横浜市立小田中学校　学校だより

小田の丘

令和6年　1 月　22 日発行
令和5年度　1 月号
校　長　中野　瑞枝
住所　〒236-0052
金沢区富岡西 1-73-1
☎　775-3801

「　去年(こぞ)今年貫く棒の如きもの」

校長　中野　瑞枝

令和6年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。「元日に起きた能登半島地震で多くの方が亡くなり2週間過ぎた今でもなお、安否不明者がおられます。ご冥福をお祈りするとともに、お見舞い申し上げます。

さて、冒頭にあげたこの句は、明治から昭和にかけて活躍した俳人の「高浜虚子」の句で私の好きな俳句の一つです。直訳をすれば(去年と今年に貫く棒)となりますが、高校時代の国語の授業で恩師が、年の初めの授業で「どういう意味が込められえているのかわかるか？」と言われ、次のように話されました。

「年が明けても時間の流れは変わらずに過去、現在、未来へと繋がっています。今現在も、過去を生きてきた今日の自分がいて、この自分は未来への自分に繋がっています。来年の今頃には自分はどのように成長しているのか･･･。自分の中に貫いている意志(信念)とか強さ、目標などを新しい年の初めにあらためて確認をして 1 年をスタートしてほしい。力を身につけるということは、今日やったから明日には力になっているというものではなくて、少しずつの取組を継続させていくことが大切です。よく言われることですが、(千里の道も一歩から)自分の歩幅で一歩を着実に踏み出して目標に向かっていくことが大切です。」

私が先生から聞いた高校の時代から、社会の状況は大きく変わりました。それでも、先生から教わったことは、今でも自分の中に残っています。人としての考えや思い、表面上には見えない心の中にある大切なものは、時代が過ぎても変わらないものであると思います。世界がパンデミックと言われたような状況があったように、これから先、何が起こるのか予測もできない、見通しのつかない将来や未来だと言われています。この先 10 年後には、人工知能 AI がさらに発展して、現在ある仕事の 6 割はなくなり、さらに人工知能 AI が普及発展して人間の代わりとなっていくであろうと言われています。しかし、人間の能力を超えた人工知能 AI を生み出したのは人間です。人工知能 AI を操作するのも人間です。心の中に抱く大切なものや思い、人間の限りない可能性と想像力は、人工知能 AI は超えることができない秘めたる人間のもつ力なのです。

学校教育で求められているのは、知識を詰め込む授業ではなくて学んだ知識をどのように生かすかということです。目の前にある課題を解決するために想像力を働かせて仲間と協力してお互いの意見を交えて自分の考えを広げ思考して解決していく力、また、そこから生まれる新たな疑問、課題をもってさらに見方や考え方を広げて解決していく力などです。これらの力がこれから先の将来未来を生き抜くために必要であるといわれています。

令和 6 年も、子どもたちが、自分の夢や希望を力にむかって、生徒一人ひとりの可能性を広げられることができる 1 年となるように教職員一同努めてまいります。本年もご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。